

森や山に囲まれた自然豊かな田舎で暮らしている農家があります。農家の皆さんがこの田舎でいかにして農業を続けていけるのか、いかにして暮らしていけるのかについて考えてみます。農業関係者だけでなく、都会で田舎の農産物を食べている人、その農産物を売る人、そして田舎と都会とをつなぐ活動をしている人、それぞれの立場から皆で一緒に田舎のもつ魅力を見つめ直してみましよう。

日本作物学会第248回講演会シンポジウム

田舎はいかが？

～農業で支える田舎の魅力を売り込め～

コーディネーター:

山口武視(鳥取大学農学部)

話題提供者:

高橋 肇(山口大学農学部)

大室健治(農研機構西日本農業研究センター)

ハネリスト:

西島豊造((株)スズノブ、お米マイスター)

前田耕作((株)マエダ、もち麦販売業者)

花房美香(ガーデニングプランナー)

日時:2019年9月25日(水)13:00~16:30

場所:とりぎん文化会館小ホール
(鳥取県立県民文化会館)

入場無料

主催:日本作物学会、共催:麦活コンソーシアム

本シンポジウムは農研機構生研支援センター「革新的技術開発・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト)」の支援による研究成果を基に実施しています。

本シンポジウムでは、事前に多くの皆様からのご意見をいただき、そのご意見をもとにしてパネルディスカッションで議論します。皆様からのご意見はすべて匿名にて活用させていただきます。EメールまたはFAXで本シンポジウムコーディネーター・高橋までお寄せください。なお、ご意見をくださった方には、シンポジウム終了後にシンポジウムの報告書を贈らせていただきます。

次の3つの質問にお答えください。

- ①あなたが考える田舎の魅力とは、何ですか？
- ②あなたが考える田舎の魅力を売り込むためには、どんな方法が考えられますか？
- ③このシンポジウムに期待すること等、ご自由にご意見をお寄せください。また、シンポジウムの内容に関してご質問があればお寄せください。

話題提供（シンポジウムで議論するもとなる話題です）

もち麦は、近年高機能性食品として注目され、需要を大きく伸ばしています。一方、自然環境に配慮した米作りである特別栽培米を生産して地域の環境を守る農業が進められています。中山間地における田舎の魅力をこれらもち麦や特別栽培米の販売を通して都会の人々に提供していくマーケティング戦略を構築してみました。地域を支えるローカルスーパーのネット販売を通じて、その地域のなかでの都会と田舎において顔の見える結びつきを築いていこうというものです。

田舎の魅力とは何なのでしょう？それをどのようにして伝え、どのようにして都会に売り込んでいけるのでしょうか？中山間地のような田舎で農業をしながら生きていける方法を皆さんといっしょに考えてみたいと思っています。

送り先 (2019年8月31日〆切)
高橋肇（たかはしただし）山口大学農学部教授
E-メールアドレス：tadashit@yamaguchi-u.ac.jp
FAX：083-933-5840
〒753-8515山口県山口市吉田1677-1山口大学農学部